

2020 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツ学科		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	運動学		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時間	前期 集中講義	教室名	第2校舎303
担 当 教 員	奥田 正作	実務経験と その関連資格	平成14年 理学療法士免許取得 平成23年 柔道整復師免許取得 平成26年 柔道 整復師専科教員免許取得【病院勤務 21年以上】			
《授業科目における学習内容》						
内容は教科書を中心に行います。臨床に照り合わせて行う予定です。						
《成績評価の方法と基準》						
期末試験評価:100%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
運動学(全国柔道整復学校協会編集) 【参考図書】 解剖学(全国柔道整復学校協会編集)						
《授業外における学習方法》						
「運動学」教科書を基に該当範囲の予習と復習を行うこと。適宜必要に応じて、解剖学の教科書を参考にする。						
《履修に当たっての留意点》						
教室内は一つの社会です。他の学生が不快となるような言動は慎み、全員による居心地の良い教室空間の構築を期待します。						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	運動学を学ぶ意義を理解する。	運動学(全国柔道整復学校協会編集)	解剖学の教科書を元に運動の目的・表し方を復習しておく	
		各コマにおける授業予定	オリエンテーション 運動の目的・表し方			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	ヒトの身体運動と力学の関係性を理解する。	運動学(全国柔道整復学校協会編集)	授業後に身体運動と力学を復習する	
		各コマにおける授業予定	身体運動と力学①			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	ヒトの身体運動と力学の関係性を理解する。	運動学(全国柔道整復学校協会編集)	授業後に身体運動と力学を復習する	
		各コマにおける授業予定	身体運動と力学②			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	骨と筋を中心とした運動器の構造と機能を理解する。	運動学(全国柔道整復学校協会編集)	解剖学の教科書も参考に運動器の構造と機能を復習しておく	
		各コマにおける授業予定	運動器の構造と機能①			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	骨と筋を中心とした運動器の構造と機能を理解する。	運動学(全国柔道整復学校協会編集)	解剖学の教科書も参考に運動器の構造と機能を復習しておく	
		各コマにおける授業予定	運動器の構造と機能②			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	骨と筋を中心とした運動器の構造と機能を理解する。	運動学(全国柔道整復学校協会編集)	解剖学の教科書も参考に運動器の構造と機能
		各コマにおける授業予定	運動器の構造と機能③		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	中枢神経系と末梢神経系の関連性を把握し、運動との関連性を理解する。	運動学(全国柔道整復学校協会編集)	解剖学の教科書も参考に運動器の構造と機能
		各コマにおける授業予定	神経の構造と機能①		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	中枢神経系と末梢神経系の関連性を把握し、運動との関連性を理解する。	運動学(全国柔道整復学校協会編集)	解剖学の教科書も参考に運動器の構造と機能
		各コマにおける授業予定	神経の構造と機能②		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	履修した神経系の構造を理解し、運動に関する感覚を関連性を理解する。	運動学(全国柔道整復学校協会編集)	解剖学の教科書も参考に神経の構造と機能
		各コマにおける授業予定	運動感覚		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	履修した神経系の構造を理解し、反射と随意運動を理解する	運動学(全国柔道整復学校協会編集)	解剖学の教科書も参考に反射と随意運動を復習しておく
		各コマにおける授業予定	反射と随意運動		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	ヒトの解剖学的構造を理解し、四肢と体幹運動の関連性を理解する。	運動学(全国柔道整復学校協会編集)	解剖学の教科書も参考に四肢と体幹の運動を復習しておく
		各コマにおける授業予定	四肢と体幹の運動①		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	ヒトの解剖学的構造を理解し、四肢と体幹運動の関連性を理解する。	運動学(全国柔道整復学校協会編集)	解剖学の教科書も参考に四肢と体幹の運動を復習しておく
		各コマにおける授業予定	四肢と体幹の運動②		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	ヒトの解剖学的構造を理解し、四肢と体幹運動の関連性を理解する。	運動学(全国柔道整復学校協会編集)	解剖学の教科書も参考に四肢と体幹の運動
		各コマにおける授業予定	四肢と体幹の運動③		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	履修内容を確認し、運動学を総合的に理解する。	運動学(全国柔道整復学校協会編集)	履修範囲の理解度を把握し必要な復習を行う
		各コマにおける授業予定	履修内容の総復習		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	履修内容の国家試験と同等の問題が解けるようになる。	運動学(全国柔道整復学校協会編集)	履修範囲の復習をして授業にのぞむ
		各コマにおける授業予定	まとめ		